

# 平成29年度 東村山市立秋津東小学校 学校評価報告書

## 学校教育目標

◎すすんで学ぶ子 ○思いやりのある子 ○元気な子

## 目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 子供たち一人一人が「思いっきり活動する喜び」「できる・わかる喜び」「知る喜び」「かかわる喜び」などを味わい、すすんで学ぶ子を目指す学校

【目指す児童・生徒像】 すすんで学び、認め合い、支えあい、高めあいながらめあての実現に向けて努力する子供

【目指す教師像】 個性と能力を發揮し、情熱と教育愛をもって子供たちとかわる教師

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

基本的な生活習慣が定着しており、話を聞く態度やあいさつをする姿に向上が見られる。授業改善及び、朝学習や家庭学習の継続により学力の定着が見られると共に体力の向上も見られた。学力のさらなる向上と、気持ちの良いあいさつや言葉遣いを定着させていくことが課題である。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
学力向上	○ユニバーサルデザインに基づき、学年学級の実態に応じた授業改善推進プランを作成し、学習環境を整える。 ○週2回の朝学習で国語・算数・読書の時間を確保する。	3	4	児童の授業に対する満足度は高い。児童の実態に応じた授業改善プランは9月に完成した。今後は、授業の中で継続的に実践していく。また、教員側はユニバーサルデザイン、特に1時間の流れの提示や必要な指示の視覚化等を徹底していく。	4	4	教員側はユニバーサルデザイン、特に1時間の流れの提示や必要な指示の視覚化等を意識して取り組んできた。継続していく。
	○各教科で「書く」活動を確保する ○低学年100冊、中学年40冊、高学年60冊の読書目標を設定し、達成できるよう働きかける。	4	3	ノートに書く活動を重視し、よく書いているノートの紹介なども行っている。読書目標に対して、1学期終了時に全担任は児童の読書量の把握をし、目標値に順調に進んでいると判断している。引き続き、ノート指導と読書の意欲付けを行う。	4	2	児童の読書目標値に対する自己評価が低い。この傾向は中学年児童が多い。読書への動機付け、読書の習慣付けが今後の課題である。
健全育成	○「あきつひがしスタンダード」を徹底し、学習におけるマナーの向上を図る。 ○月目標であいさつの目標も併記し、学校全体で取り組む。	4	4	あきつひがしスタンダードについては、児童に浸透し、身につけている児童がほとんどである。1年生もスタンダードを身につけることが課題である。あいさつについては、朝会等で指導をした直後は、とてもよい。あいさつが継続できることが課題である。	4	4	あきつひがしスタンダードについては、児童に浸透し、身につけている児童がほとんどである。来年度の当初の指導がとても大切なので、全学級統一して指導する。あいさつについては、校内ではできるようになってきたので、継続すると共に地域でもできることが課題である。
	○いじめ関連事象が見られた際には、発見者がすぐに「発見カード」を記入し、報告を行う。 ○アンケートを年3回・児童・担任の二者面談を行い、児童の実態の把握に努める。	4	4	年間3回のアンケート、二者面談、いじめ防止の授業、いじめ発見カードなど、組織的に実施されている。児童も学校の取組みを評価している。保護者への発信が課題である。	4	4	年間3回のアンケート、二者面談、いじめ防止の授業、いじめ発見カードなど、組織的に実施されている。児童も学校の取組みを評価している。保護者へPRしたが、今一歩取組みが知られていない。どうPRするか今後の課題である。
健康・体力づくり	○あきひがわくわくタイムを実施し、児童の遊びの幅を広げ、体力向上を継続する。 ○各ブロックごとに体育の研究を行い、体力の向上を図るとともに授業の質を高める。	2	4	あきひがわくわくタイムについては、週1回実施しているが、今年度発足が遅れたことが教員側の反省事項である。また、校内研究として体育の授業研究を行い、指導法の工夫改善と運動量の確保を行っている。研究の成果を日常の体育の授業で継続していくことが課題である。	4	4	あきひがわくわくタイムについては、週1回実施し、軌道に乗ってきている。児童の満足度も高い。また、校内研究として5年間体育の研究に取り組んできた。来年度以降、研究の成果を日常の体育の授業で継続していくことが課題である。
	○毎日の給食に関する便りを発行し、児童の食事についての意識を高める。 ○「食育」に関する授業を栄養士と連携して行い、児童の意識を高める。	2	3	給食便りや給食の放送等で、食に対する関心は高まっている。食育の授業も行っているが、栄養士に頼る部分が多い。教職員の意識を高めることが課題である。	2	4	給食便りや給食の放送等で、児童の食に対する関心は高まっている。食育の授業は、も行っているが、栄養士に頼る部分が多い。教職員の意識を高めることが課題である。
保護者・地域との連携	○学校便り、学年便りなどで決め細やかに情報を発信していく。	4	4	定期的な発行し、保護者アンケートからも肯定的な評価が得られた。オリンピック・パラリンピック教育に関することといじめに関することを発信していくことが課題である。	4	4	保護者アンケートからも肯定的な評価が得られている。オリンピック・パラリンピック教育に関することも意図的に伝える記事が載せることができ、保護者の回答も後期に上昇した。次年度も学校での取組みを発信していくことが課題である。
	○6年は全生園、5年はあきつひの園、4年ははるびの郷、1～3年はおはなし宅配便ポポと連携し、こころの教育を進める。	1	4	4～6年生は、2学期以降に計画されているため、努力目標(教員側)値は低い。年間計画に従い、計画的に進める。	4	4	後期に計画的に実施してきた。体験的な学習を通して児童のこころをいかに育てていくかが課題である。
特色ある学校づくり	○ALTやJET青年との交流、地域人材の活用した集会の実施など、アクティブプランに沿った教育活動を年間35時間以上行う。	1	3	アクティブプランの実施に関しては、各学年の進行状況を確認し、計画的に実施していくことが課題である。	3	3	アクティブプランの実施に関しては、今年の実施状況の反省を元に、各学年計画的に実施していくことが課題である。
	○ひまわり班活動を充実させる。 遠足や子どもまつり、ふれあい給食など他学年との交流を年15回以上実施する。	4	4	年間計画に従い、順調に進んでいる。子供たちの満足度も高い。上学年のリーダーシップを育てていくことが課題である。	4	4	年間計画に従い、順調に進めた。子供たちの満足度も高い。ここ数年の継続実施で上学年のリーダーシップも育ちつつある。継続すると共に、リーダーシップとフォローシップを育てていくことが課題である。